

FD 委員会 2019 年度総括（自己点検・評価）

FD 委員長 渡邊浩文
教務学生課長 目黒裕二

1. 2019 年度目標の達成状況・主要計画の実施状況

(1) 授業・大学評価アンケート

事実の説明	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケートについては教務委員会と連携し、毎週末に各授業担当教員に回答率を RPA（robotic process automation：事業プロセス自動化技術）を活用しメール配信することで回答率が向上した。 大学評価アンケートについては大学企画室と連携し、毎週末に学生に回答の督促メールを配信するとともに、全教員に学科・学年別の回答率をメール配信し、各教員からも学生に対し督促した結果、80%を超える回答率を得られた。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケートは、これまで過去 3 年間平均の回答率が 42.3%(前期)であったが、今年度前期 62.48%と向上したが目標値の 80%は下回った。今後一層の周知及び実施方法の改善を図らなければならない。 共通学生調査では前年度 18.3%の回答率であったが、今年度 87.3%と大きく向上した。関係部門と連携し実施したことに加え、新たなアンケートサイトの運用による回答率向上を図ったことによる効果であったと判断している。

(2) 授業改善

事実の説明	<ul style="list-style-type: none"> LMS の利用統計を集計し、導入以来利用率が高くなっていること、学科や学年によって利用状況の差異があることが確認した。 LMS、e ラーニングの利活用促進のために、活用状況の把握を行い事例集としてまとめ、FSD 研修会として事例の紹介を行うことを計画したが、実施できなかった。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> LMS 利用統計を詳細に確認することによって、ピーク月に 91%の学生が一度以上利用していることが分かった。学生の利用率は上昇を続けており、今後、教員の利用率向上施策を計画しなければならない。 FSD 研修会の開催については、3 月実施を検討していたが、コロナウイルスの関連もあり、次年度実施に向けて日程等を再調整中である。

(3) FD 事業/活動の情報公開

事実の説明	本学ウェブサイトにて情報を公開することとしているが未公開が多い。
自己評価	公表すべき情報を整理し、情報公開に努めなければならない。

(4) 研究業績

事実の説明	今年度研究業績の入力について、未入力教員への督促や義務化の周知を行い、入力状況は 74.8%と上昇し一定の効果が見られた。
自己評価	公表が義務化されていることから、より一層の周知を行い入力率 100%を実現させなければならない。

(5) アセスメントポリシー（学修成果の評価）

事実の説明	<ul style="list-style-type: none"> FD 委員会での議論、大学企画室、教務委員会との情報共有、意見交換を行いアセスメントポリシーが策定できた。 他大学のシラバス内容等の確認と成績評価のガイドラインの再確認を行った。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントポリシーの策定を受け、各学科の単位習得状況や GPA 等から学修成果の達成状況を検証するまでには至らなかった。 前期試験前に成績評価のガイドラインについての FSD 研修会を行ったことで、各教員再確認ができたかと判断している。

(6) 大学院活性化

事実の説明	主として新規設置された WG での議論によるが、進学者増員施策として、学費の値下げ、特待生制度の見直し、奨学金、学部生による大学院授業科目先取履修の制度等を新設し、大学院紹介のパンフレットも一新するなど広報にも注力できた。
自己評価	他大学の大学院同様の学生支援が行えるようになったと判断している。

※学長諮問事項（2017）の進捗状況に係る項目については、【学長諮問事項】と記載して下さい。

2. 課題および改善・向上の方策

- 研究業績データベースへの未入力者に対し、個別に依頼し入力を促す。
- 情報公開については、公表すべき情報を整理し公表する。
- 授業・大学評価アンケート、授業改善（LMS の利活用）については、実施計画の内容を検討し、より効果的な取り組みとなるよう図る。

3. 特記事項

- 計画外の特筆すべき取組等：なし
- 外部評価または指摘等：なし